

# 東アジアと日本政治

## 日本と韓国（韓国と日本）の地域間交流の実態

——対馬市と釜山広域市の交流を中心として——

### 目次

はじめに

#### 第一部「報告集」

- 一、日本大学法学部創設一二五周年記念「政経研究所シンポジウム」報告要旨（一部改訂）【資料】
- 二、国境地域から考える北東アジアの地域主義【論説】

政経研究所共同研究中間報告「東アジアと日本政治」

佐渡友 哲

二七九

三、日本と韓国（韓国と日本）の地方分権改と地域活性化の現状【論説】

—釜山広域市と対馬市の交流を中心として—

四、釜山広域市と福岡市の地域間交流【研究ノート】

五、対馬市と島影区、対馬市と蔚州郡との交流に関する調査【研究ノート】

第二部「調査報告」【資料】

一、釜山広域市腸廳での聞き取り調査報告書

二、釜山港湾公社での聞き取り調査報告書

三、対馬市役所での聞き取り調査報告書

山田光矢

崔永鎬

孔義植

山田光矢

## はじめに

この報告は、二〇一三（平成二五）年度から三年計画で実施している、政経研究所の共同研究『東アジアと日本政治』の中間報告である。この研究を企画した背景には、竹島問題や尖閣列島問題を挟んだ、日韓（韓日）と日中（中日）間の「政冷経熱」あるいは「政冷経冷」といわれている現象が、その実態を冷静に考察してみた場合、本当にそうなのかを分析してみようと考えたためである。領土問題の裏では日韓（韓日）漁業協定や、日台（台日）漁業協定が結ばれ、交流が継続されていることも事実である。二つの事象を考察することから、本研究は大きく「日本と韓国（韓国と日本）」、「日本と台湾（台湾と日本）」に区分して研究に取り組んでいる。実際には、釜山市や蔚州郡と福岡県や福岡市、長崎県や対馬市を中心とした長崎県内の離島との交流、沖縄県八重山地域や地域内の石垣市、竹富町、与那国町と台湾の花蓮市や宜蘭県蘇澳鎮をなどの相互交流の目的や実態などを中心に、現時点では現時調査や資料収集などを実施している。可能ならば少し区域を拡大してまさに東アジアとの交流に調査範囲を拡大していきたいと考えている。

韓国と日本の相互交流については、法学部教授である山田光矢、佐渡友哲、孔義植と、客員研究員として迎えた韓国霊山大学の崔永鎬教授の四人で研究や現地調査等を実施してきた。日本語が堪能な二人の韓国人研究者の協力が得られたことで研究は予想外の成果を挙げたものと自負している。二度の釜山広域市を中心とした韓国での調査と、釜山から渡った対馬市での研究調査が先行していることから、日本と韓国（韓国と日本）の相互交流に関する成果を、二〇一四年一〇月四日に法学部において実施された、日本大学法学部創設一二五周年記念シンポジウムにおいて最

初に報告した。今回の中間報告はそれぞれの報告を文章にまとめたものである。まだまだ研究途中の報告集である。ことをお断りしておきたい。

今回の報告書の第一部の一は、創設記念シンポジウムにおける報告要旨である。調査報告を要旨に従って実施するつもりであったが、実際には山田と孔の報告に重複した部分がかかなり多かつたことから、山田は日本と韓国の地方自治制度の特徴を中心とした「基調報告」を行うこととし、釜山広域市と対馬市の現地調査等の内容については孔が報告することとした。それゆえシンポジウムは、山田（基調報告・韓国の地方自治制度の特徴）、佐渡友（東アジアの国際交流の実態等）、崔、釜山広域市と福岡市の交流の事例報告）、孔（釜山広域市と対馬市の交流の事例報告）を行った。その結果、シンポジウム報告は報告要旨とは若干異なつたものとなつた。この中間報告はシンポジウムの報告にお互いの研究内容を考慮して、論文の掲載順序を調整したことから、第一部の一と二から五までの順序やシンポジウムにおける報告順と内容に内容に若干相違があることをお断りしておきたい。